



2026 年 7 月 13 日

各位

会社名 株式会社インターファクトリー
代表者名 代表取締役社長兼CEO 蕪木 登
(コード番号 4057 東証グロース)
問合せ先 取締役兼CFO 赤荻 隆
(TEL 03-5211-0086)

通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025 年 7 月 14 日に公表いたしました 2026 年 5 月期（2025 年 6 月 1 日～2026 年 5 月 31 日）の業績予想と本日発表いたしました実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 2026 年 5 月期（2025 年 6 月 1 日～2026 年 5 月 31 日）業績予想値と実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）	3,223	82	77	53	13.00
実績値（B）	2,862	64	54	34	8.51
増減額（B－A）	△361	△17	△23	△19	△4.49
増減率（％）	△11.2	△21.6	△30.0	△36.0	△34.5
（ご参考）前期実績 （2025 年 5 月期）	2,864	196	190	137	34.11

2. 差異が生じた理由

クラウドコマースプラットフォーム事業につきましては、主力サービスの EBISUMART において既存店舗の GMV（取引流通総額）およびPV数（ページ閲覧数）が順調に拡大したことが寄与し、当初予想どおりに推移いたしました。一方で、新規プロダクトである EBISUMART Enterprise につきましては開発体制の見直しを行うなどしたため開発に遅れが生じております。その結果、売上高は当初予想 3,001 百万円に対して、実績は 2,731 百万円となりました。

ECビジネス成長支援事業につきましては、EC事業の成長を戦略立案から実務まで一貫通貫で支援するサービス「EBISU GROWTH（エビスグロース）」の引き合いが好調に推移いたしました。一方で、広告運用代行サービスについて、2026 年 5 月期からパートナー企業に委託する

取次業務となり売上高の表示方法が総額表示から純額表示に変更となったため、売上高が減少しました。その結果、売上高は当初予想 173 百万円に対し、実績は 129 百万円となりました。なお、収益性の高い案件への注力等により、同事業のセグメント利益は4百万円の利益（前期は12百万円の損失）となりました。

データ利活用プラットフォーム事業につきましては、商品データ統合プラットフォーム「EBISU PIM（エビスピム）」の認知獲得に時間を要したため、売上高は当初予想 49 百万円に対し、実績は 698 千円となりました。なお、マーケティング強化により同サービスへの引き合いは足元で増加しており、2027 年5月期はさらなる認知拡大と売上の拡大に取り組んでまいります。

全社における販売費及び一般管理費につきましては、主に広告宣伝費が計画より下回って推移しており、当初予想 1,224 百万円に対し、実績は 1,112 百万円となりました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益が当初予想を下回る結果となりました。

以上